

## 国際化学肥料ニュース（2019年7月）

### 肥料業界の2019年7月動態

- \* モロッコ OCP 社とインド側は第3四半期の粗りん酸価格に関する交渉に CFR インド 655 ドル/トン (P2O5 換算) という結果が出た。この価格は第2四半期より 73 ドル/トンの値下げ、2018年第1四半期の水準に戻った。値下げの理由は DAP の国際価格の急落で、粗りん酸も引きずられる形となった。粗りん酸は DAP と MAP の原料で、インドがモロッコとヨルダンから年間 300 万トン以上輸入して、国内 DAP 製造の原料とする。
- \* リン安の国際価格の低迷を受け、中国産 DAP の FOB 価格が1年間で約 20% も下がった。最近開催された中国リン安の「6+2」（主力メーカー6社プラス大手商社2社）会議では、主力メーカーが協調して7~9月の DAP 生産量を約 40%、数量で 100 万トン減らすと決定した。
- \* インド MMTC 社が6月24日発表、7月1日開札された尿素の国際入札は、応札量 306 万トンのうち、CFR292~296 ドル/トンで 171.3 万トンを契約する予定という噂がある。そのうち中国産尿素が 80~100 万トンも入る情報がある。
- \* 7月8日、インド MMTC 社が尿素入札の結果を発表した。応札量 306 万トン、契約量 169 万トン、その内中国産尿素約 60 万トンと言われ、8月15日まで船積する。  
今年に入って、中国尿素の実生産量約 15 万トン/日、1ヶ月の生産量が 450~470 万トン、国内需要量を満たした後の輸出量が 20~30 万トンしかない。中東産尿素の不足分の穴を中国産尿素で埋めるには無理がある。インド側も理解して、納品できない場合は、8ドル/トンの違約金さえ払えば、キャンセルを認めるルールを設けている。
- \* 中国税関の通関データによれば、中国が粒状 MAP の生産と輸出に力を入れた。その理由は DAP の輸出価格が急落で、収益性の良い粒状 MAP で補う。2019年1~6月の MAP 生産量 456 万トン、1~5月の輸出量 118.73 万トン、前年同期より 67.53%増。主な輸出先はブラジル (38.95 万トン)、オーストラリア (33.56 万トン)、アルゼンチン (13.2 万トン) である。
- \* 中国と大手加里メーカーが 2019 年の塩化加里輸入基本契約に関する商談は進まない。中国側は昨年の価格 (CFR290 ドル/トン) から 30~40 ドル/トンの値下げを要求しているが、メーカー側は逆に 60 ドル/トンの値上げを提示したようである。価格にあ

る大きな溝を埋めにくく、合意できるのは8~9月ごろになるだろうと推測され、契約しない可能性もあると言われる。ちなみに昨年合意して契約したのは9月であった。

- \* 中国国家统计局のデータによれば、今年1~5月の化学肥料生産量が2.4%増の2419.6万トン（純N,P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>,K<sub>2</sub>O換算）。また、1~5月の化学肥料輸出量が41.9%増の1057万トン（実物量、以下同）、その内尿素が189.6%増の162万トン、DAPが39.1%増の215万トン。輸入量が15.6%増の579万トン、その内塩化加里が17.1%増の483万トン、化成肥料が6.7%増の65万トン、尿素が17.9%増の10.4万トン。
- \* 7月6~8日に開かれた中国窒素肥料工業協会の全国会議に、老朽化した窒素肥料生産設備の廃棄状況が公表された。2018年に生産能力555万トンのアンモニア合成設備、494万トンの尿素生産設備が廃棄された。2018年末現在、中国のアンモニア合成能力6689万トン、尿素生産能力6954万トンまで削減された。それに伴い、窒素肥料業界の2018年総売上高が12.9%増の2107.6億人民元（約307.7億ドル）、利益が471.4%増の105.5億人民元（約16.3億ドル）、この10年間最高の業績である。
- \* 7月第2週りん安の国際貿易量が低迷し続けている。南アフリカが7万トンDAP、UAC/Chawlaがオーストラリアから3.4万トンDAP、タイが中国から1.4万トンDAPを購入した。また、ネパールが2万トンDAP、フィリピンが8000トンDAPの国際入札を行い、すべて中国産DAPで落札したようである。大需要家のインドとパキスタンがDAPの在庫量が多く、輸入意欲が低い。
- \* 中国の黄燐価格が急騰している。7月3日中国国営中央テレビが黄燐企業の酷い汚染様子を放送したところで、黄燐企業が集中している雲南省、四川省と貴州省政府が一斉に黄燐生産の取締を行い、すべての生産ラインを停止させた。中国のWindデータベースによれば、7月9日黄燐の平均出荷価格が15500人民元/トン（約2263ドル/トン）であったが、7月10日に17000人民元/トン（約2482ドル/トン）に上昇し、7月15日に22500人民元/トン（約3285ドル/トン）になり、ただ1週間で45.16%も上昇した。噂によれば、黄燐生産の再開には排気や排水、残渣処理など環境に係わる検査が合格しなければならず、少なくとも2~3か月かかる。黄燐の高値がしばらく続くだろう。
- \* 中国からの報道によれば、7月イランASSC社は中国から7万トン粒状塩化加里と6万トン硫酸加里を購入した。今までの供給元としてのロシアとウクライナがアメリカのイラン経済制裁を遠慮して、イランへの供給を拒否した。中国は2018年中国と加里メー

カーが締結した基本契約の価格より 15%以上を上乗せた価格でイランに転売したそうである。

- \* 大需要家のインドとパキスタンは DAP 在庫が多く、輸入意欲が低いため、7月第3週のりん安市況が低迷したままである。東半球では、中国 DAP メーカー共同で生産調整を行った結果、DAP の FOB 価格が若干上がり、338~340 ドル/トンになった。一方インドの DAP 在庫量が 300~400 万トン、Chambal 社が中国雲天化社から CFR350 ドル/トンで 6 万トン DAP の購入を契約した。バンクラデッシュの 42.1 万トン DAP の国際入札が延期される可能性が高い。パキスタンは中国側に CFR350 ドル/トンでの DAP 輸入可能性を打診している。

西半球では、ロシアの Eucham 社が FOB325 ドル/トンでブラジルに 1 万トン MAP、モロッコの OCP 社が CFR350 ドル/トン未満の価格で MAP をブラジルに輸出する。アメリカの Mosaic 社が FOB340 ドル/トンで南米に 1 万トン DAP/MAP の輸出を契約した。アルゼンチンに対して MAP が CFR355 ドル/トン未満の価格提示があり、契約に至らなかった。

- \* 中国と主要加里メーカーとの 2018~2019 年塩化加里輸入基本契約が 6 月 30 日に期限を迎えたことについて、中国政府が 8 月 31 日までの輸入を認めた。従って、9 月 1 日から新規輸入ができなくなる。但し、7 月下旬現在中国の港に輸入塩化加里の在庫量が 300 万トンを超え、年末まで輸入しなくても供給に支障が出ないとされている。

2018~2019 年塩化加里輸入基本契約が昨年 9 月に締結したから今年 5 月末までの 8 ヶ月間、中国が過去最大の計 674 万トン塩化加里を輸入した。大量の在庫が抱えているため、中国側が 2019~2020 年塩化加里輸入基本契約に関する商談に強気を出している。2018 年 10 月~2019 年 5 月中国塩化加里輸入元の国名と数量を表 1 に示す。

表 1. 2018 年 10 月~2019 年 5 月中国の塩化加里輸入一覧表 (万トン)

輸入元	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	合計
カナダ	9.6	22.5	54.8	39.9	46.8	25.6	36.8	42.5	278.5
ベラルーシ	1.0	8.7	14.0	14.5	12.6	22.8	26.4	20.7	120.6
ロシア	11.0	11.3	12.0	24.7	27.3	23.1	25.3	11.2	145.9
イスラエル	9.2	7.9	15.6	22.5	5.0	4.7	2.5	7.5	75.0
ヨルダン	0	5.5	0	5.4	10.4	5.5	5.5	6.2	38.5
ラオス	1.0	3.5	1.2	1.2	3.2	0	2.5	2.5	15.2
合計	31.8	59.4	97.9	108.2	105.3	81.7	99.0	90.7	674.0

- \* 中国税関の速報によれば、2019年6月中国産化学肥料輸出量が19.5%減の204万トン、その内訳は尿素14.5万トン、DAP59.8万トン、硫安52.2万トン、MAP19.4万トン、重過リン酸石灰11.5万トン、化成肥料20.3万トン。一方、6月化学肥料輸入量が45.5%増の80万トン、その内訳は塩化加里60万トン、化成肥料14.4万トン。

2019年上半期の化学肥料輸出量が27.1%増の1261万トン、輸出量の上位5品目は硫安(330万トン)、DAP(274.9万トン)、尿素(176.8万トン)、MAP(138.2万トン)、化成肥料(103.1万トン)の順である。上半期の化学肥料輸入量が18.4%増の658万トン、輸入量の上位3項目は塩化加里(543.5万トン)、化成肥料(87万トン)、尿素(10.41万トン)。

- \* インドからの報道によれば、モロッコやヨルダンから輸入された粗リン酸の値下げにより、DAPの国内生産量が大幅に増えた。2019年上半期のインド国内DAP生産量が40%増の248万トン。輸入量も17%増の291万トン、特にDAPの国際市場の低迷により価格が下落したこともあり、6月だけで62.6万トンも輸入した。国内販売量が昨年並みで、6月末現在の国内DAP在庫量が190万トンを超え、去年同期より150万トンも多い。従って、10月までDAPの輸入を控える動きが強い。

### 大手各社の営業業績

- \* ヨルダンのAPC社が2019年上半期の業績を公表した。加里肥料生産量が5.8%増の128万トン、販売量が3.6%増の124万トン、純利益が48%増の7.78億ドル。死海北部に新蒸発池の建設工事が順調に進行し、完成後塩化加里生産能力が14万トン/年増加する。また、硝酸加里の生産能力拡張も計画しているという。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* 7月14日、カナダのWestern Potash社は所有のMilestone加里プロジェクトの地下溶解井戸のボーリングを開始したことを発表した。Milestone加里プロジェクトはカナダSaskatchewan州Regina市の近郊にあり、埋蔵資源量約9.6億トン。第一期は6つの溶解井戸と3つの溶解トンネルを建設し、溶解採鉱法で鹹水を吸い上げ、濃縮結晶させる工法を採用し、年間生産能力15万トン、2020年末稼働開始する予定である。全体のプロジェクトが2027年に完成し、年間塩化加里280万トンを生産する能力を有する。なお、Western Potash社は中国資本の傘下にあり、カナダに加里の開発が初めてである。

### その他

- \* 7月15日、オーストラリアが中国産硝安に対するアンチダンピング調査が終了し、0.3%のアンチダンピング関税を徴収する決定を下した。

2018年6月25日、オーストラリア政府の不正競争委員会が中国、スウェーデンとタイ産硝酸についてアンチダンピング調査を開始した。10月24日中国産硝酸に39.5%のアンチダンピング関税を徴収する第1審を下した。中国政府はメーカーと一緒にオーストラリアの決定に抗弁した結果、2019年2月25日にアンチダンピング関税を29.6%に引き下げた。その後、中国側も不服して、抗弁し続いた結果、今回の0.3%象徴的アンチダンピング関税に決定された。因みにスウェーデンとタイ産硝酸のアンチダンピング関税が約14%である。

2017年中国からオーストラリアに2.8万トン硝酸を輸出し、2018年の輸出量が9.57万トンに増え、中国産硝酸輸出量の38.3%を占めた。

- \* サウジアラビアのMa'aden社は技術的な故障で、MWSPC工場のアンモニア合成ラインを停止させたと発表した。修復には3~4週間が必要で、その間にDAPなどの生産に大きく影響を及ぼすこともある。